

## 口永良部島の火山活動解説資料（平成 21 年 10 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

9月27日から火山性地震が一時的に増加しましたが、9月30日以降少ない状態で経過しました。火山性微動は10月7日以降観測されていません。また、GPSによる地殻変動観測でも、新岳火口浅部の膨張を示す変化は認められません。

これらのことから口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、30日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げ、火口周辺警報を解除しました。

口永良部島では新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰等の噴出に警戒が必要です。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

### ○ 10月の活動概況

#### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

9月27日から火山性地震が一時的に増加しましたが、9月30日以降少ない状態で経過し、月回数は131回（9月：177回）でした。震源は主に新岳火口直下のごく浅いところに分布し、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動は9月28日～10月6日にかけて発生しましたが、10月7日以降観測されていません。月回数は32回（9月：6回）でした。

#### ・地殻変動の状況（図3、図4）

GPS連続観測では、2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、6月以降認められなくなり、その後変化はありません。

#### ・噴煙など表面現象の状況（図3、図5）

遠望カメラ（新岳火口の北西約3km）による観測では、噴煙の高さは火口縁上概ね50m（最高高度は200m）で経過しました。

9日に海上自衛隊第72鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、前回（9月28日、第十管区保安本部の協力による）の観測と比べて西側火口壁からの噴煙量がやや減少していましたが、新岳火口及びその周辺の地形や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

#### ・火山ガスの状況（図3）

3日及び4日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり100トン未満と少ない状態でした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成21年11月分）は平成21年12月8日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

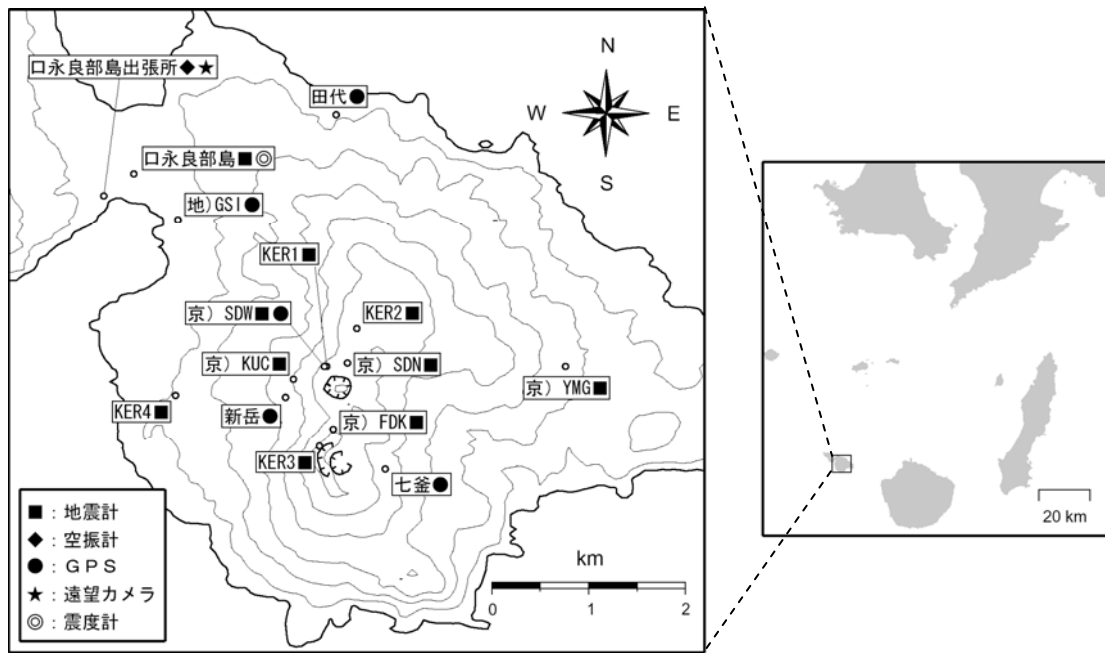


図 1 口永良部島 観測点配置図

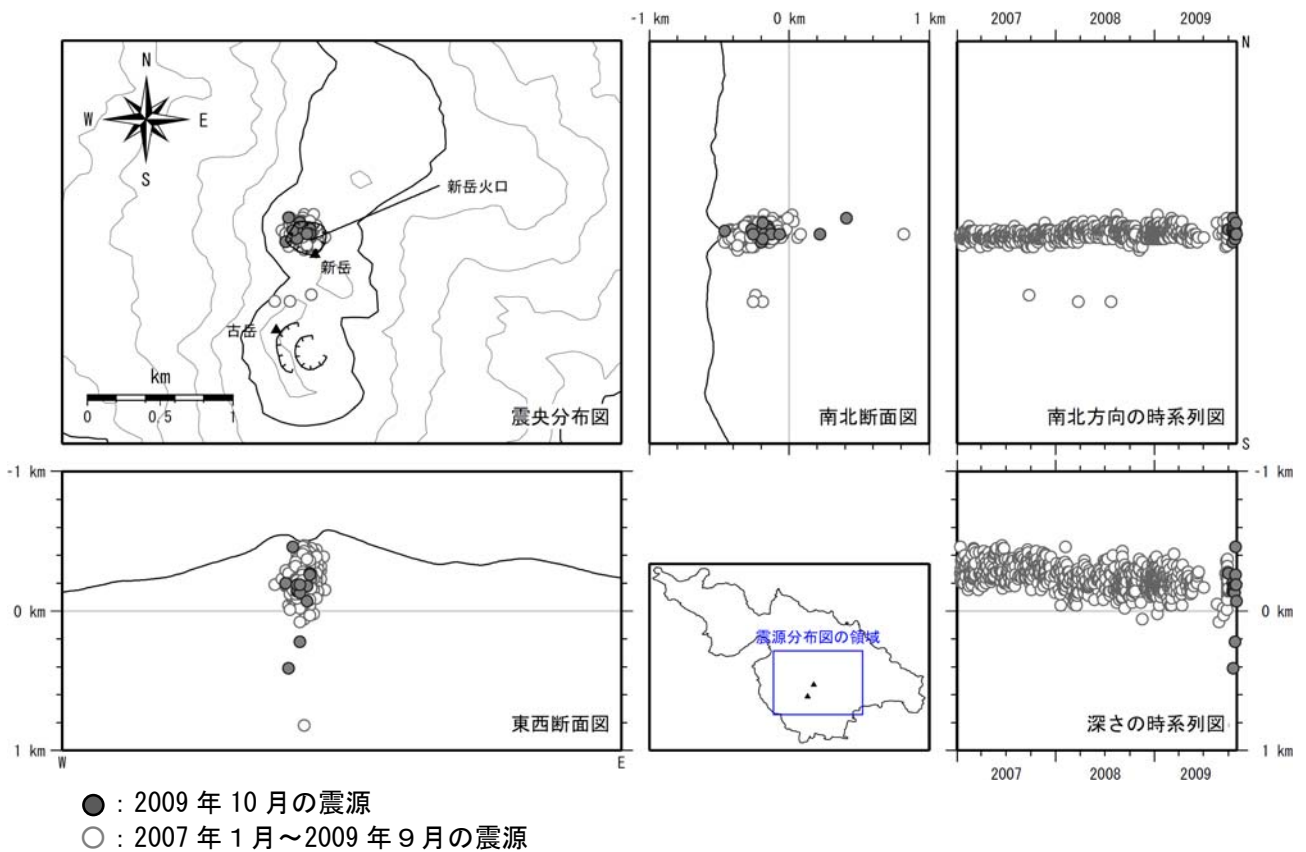


図 2※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2009 年 10 月）

<10 月の活動状況>

火山性地震の震源はこれまでと同様、主に新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

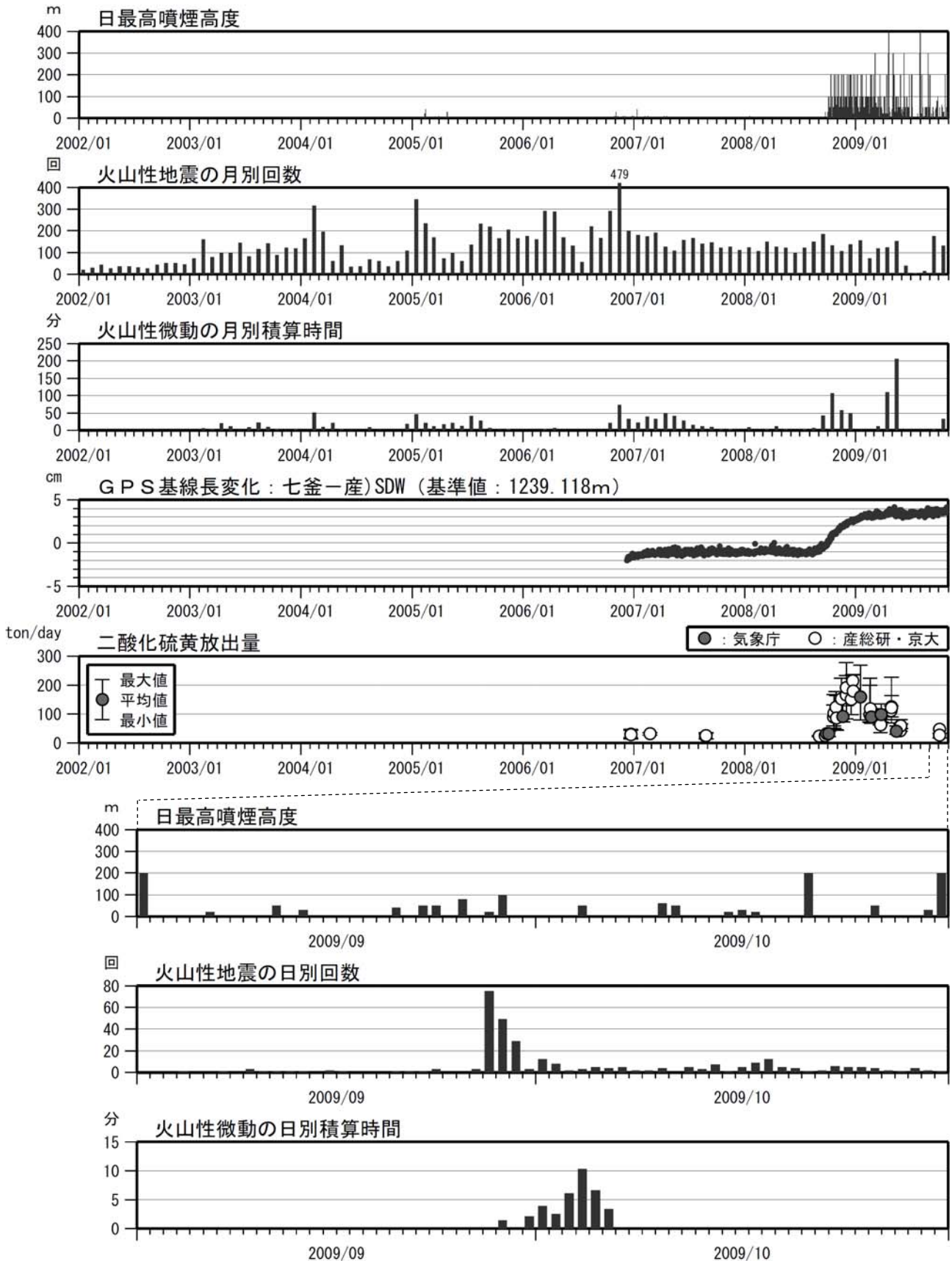


図 3※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2009 年 10 月）

<10 月の活動状況>

- ・噴煙の高さは火口縁上概ね 50m（最高高度は 200m）で経過しました。
- ・9 月 27 日から火山性地震が一時的に増加しましたが、9 月 30 日以降少ない状態で経過し、月回数は 131 回（9 月：177 回）でした。
- ・火山性微動は 9 月 28 日～10 月 6 日にかけて発生しましたが、10 月 7 日以降観測されていません。月回数は 32 回（9 月：6 回）でした。

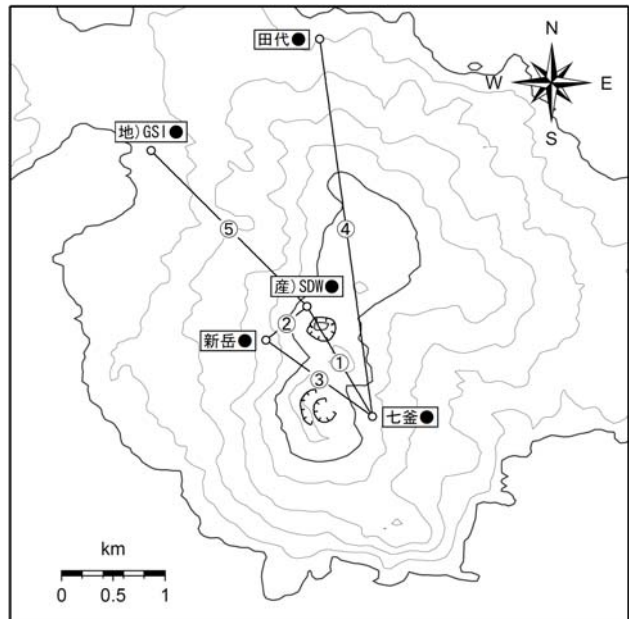
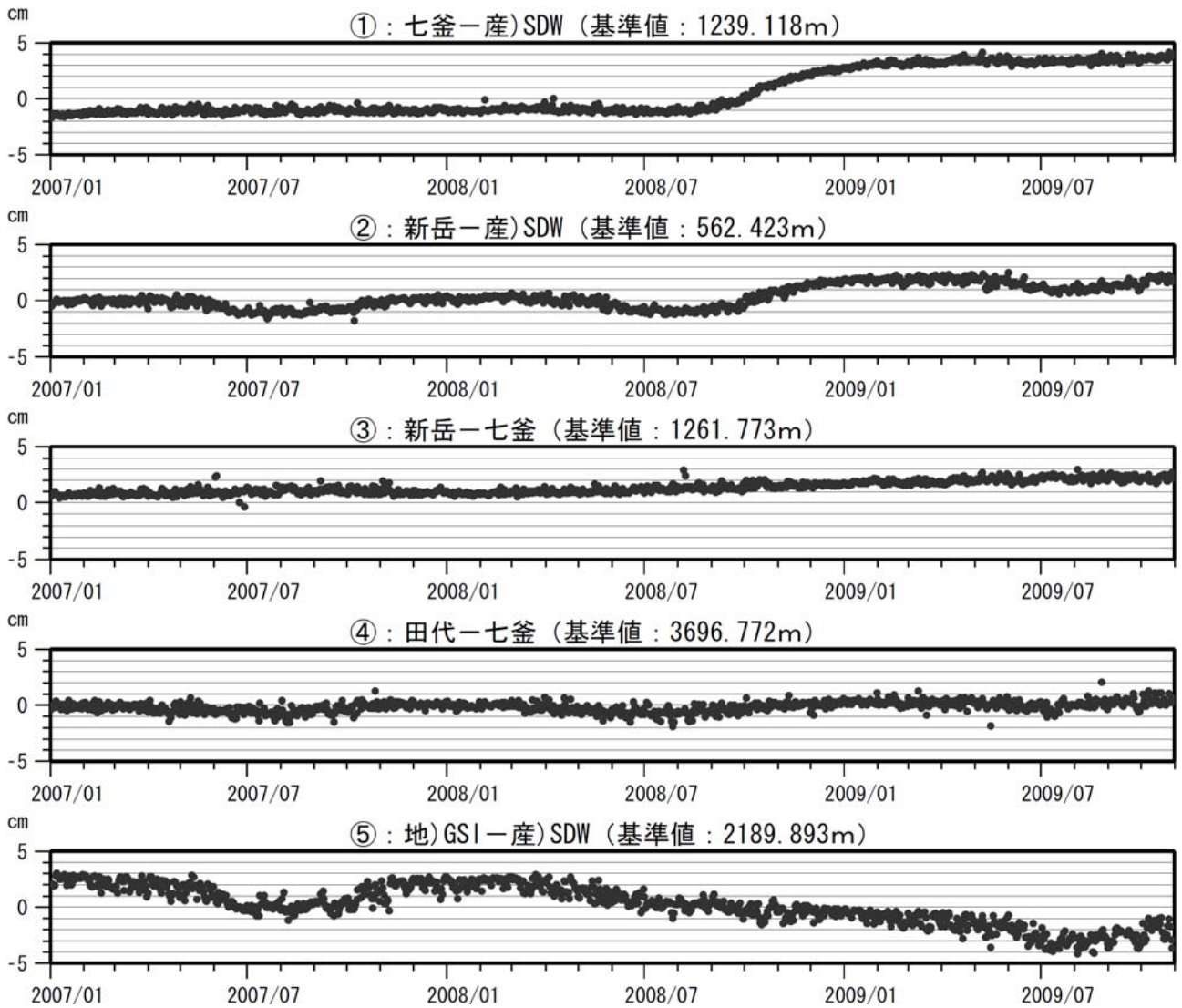


図 4※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月~2009 年 10 月)  
 2008 年 9 月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、6 月以降認められなくなり、その後変化はありません。

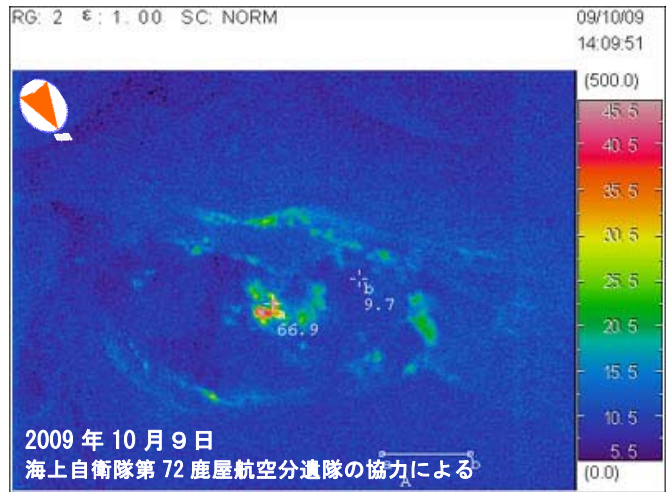
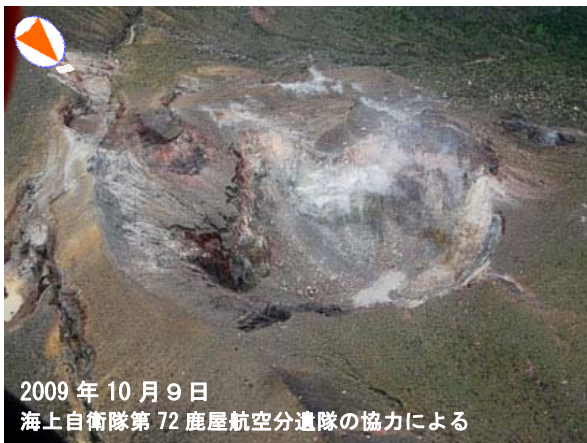
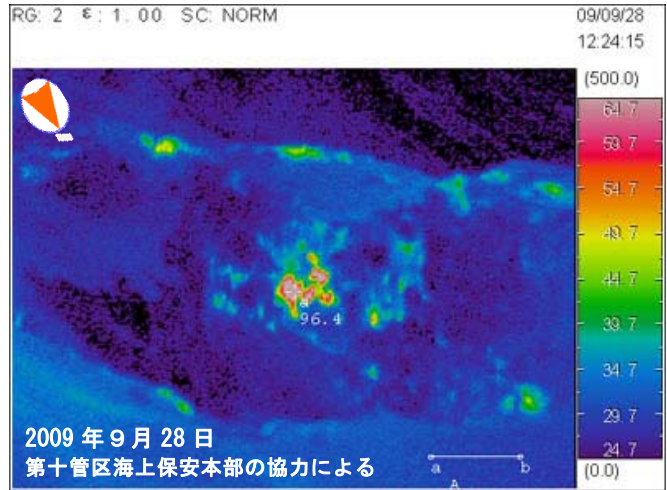


図5 口永良部島 新岳火口周辺の状況と赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による地表面温度分布  
9日に海上自衛隊第72鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、前回（9月28日、第十管区保安本部の協力による）の観測と比べて西側火口壁からの噴煙量がやや減少していましたが、新岳火口及びその周辺の地形や地表面温度分布に大きな変化はありませんでした。熱映像は図中の熱異常のない部分の温度平均値で表示レンジを調整しています。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。